

## 〈PTA全体委員会（3月7日）報告〉

■ [平校長\(PTA名誉会長\)より学内報告 1](#)

■ [木村PTA会長より挨拶 2](#)

■ [PTA本部会計 活動報告 3](#)

■ [分科委員会 4](#)

- └ 総務委員会
- └ 新聞委員会
- └ 会報委員会
- └ PTA活動推進委員会
- └ 行事委員会

■ [編集後記 7](#)



## 平校長(PTA名誉会長)より学内報告

麻布学園PTA役員の皆さん、本日もお忙しいなかPTA活動のため、ご足労頂きありがとうございます。先々週の全体委員会の頃はまだ冬の寒さが残っていましたが、3月も一週間が過ぎ、一段と春めいてまいりました。今回は有栖川公園の梅林で梅が開花していることに触れましたが、今はもう見ごろを過ぎました。ちなみに、花の散り方の表現として桜は「散る」ですが、梅は「こぼれる」と言うそうです。他には、菊は「舞う」、牡丹は「くずれる」など日本語の表現は多彩で豊かですね。

昨日は麻布高等学校の第78回の卒業式があり、高3生306名が元気に巣立っていきました。彼らは2020年の中学入学生で、コロナ禍により入学式が6月に延期となった学年でもありましたので、卒業証書を一人一人に手渡す際には感慨深いものがありました。一方、本日は中学新入生302名についての保健面診の日で、新入生保護者の方が三々五々来校していらっしゃいます。まことに春は人を送り、迎える季節です。

また、昨日からは高校2年生以下の学年で学年末試験が始まりました。一生懸命に勉強して有終の美を飾り、それぞれ上級の学年に進級、進学してもらいたいと思っています。

本日をもってPTAの諸活動も一部を除いて終了となります。皆さま、一年間おつかれさまでした。そして、本当にありがとうございました。



今年度最後のPTA役員全体委員会にて

## 木村PTA会長より挨拶

3月6日金曜日にPTAを代表して麻布高校卒業式に参列し、祝辞を申し上げる機会をいただきました。祝辞の概要は始業式に配布予定の麻布PTA新聞3号に掲載されますので、そちらに譲りたいと思います。ここでは卒業式の様子を少しばかり。

卒業式では、平校長が、卒業生の名前を読み上げながら、お一人お一人に卒業証書を手渡されました。卒業証書授与だけで2時間弱を要しましたが、私も一人ひとり心を込めて拍手でお祝いさせていただきました。

卒業生の多くはスーツ姿。麻布の標準服や袴姿の方もそれぞれ10人弱いました。所属していた部活動に関連する服装の卒業生は思いのほか少なかったです。全身白タイトの「ちいかわ」が1人（1匹?）、異彩を放っていましたが、かえって微笑ましく、人気の被写体になっていました。

卒業式は湿っぽくなく進行し、最後に校歌を斉唱しました。2番の最後にある「愛と誠をもとるとたてつ新しき道先がけ行かむ」を歌い上げる卒業生を見て、急に万感胸に迫るものがありました。卒業生のご活躍を心より祈念いたします。

2025年度のPTA委員の皆さんもここで一旦、「卒業」となります（総務委員会の委員の皆様には4月11日の保護者会後の引継ぎや総会運営までもうしばらくお世話になります）。この1年間、いろいろな苦労や悩みもあったと思いますが、麻布学園のPTA活動にご貢献いただき、誠にありがとうございました。皆様のおかげで私もPTA会長の役職を務めることができ、心より御礼申し上げます。学年委員会や分科委員会などでできたPTA委員や教員の方々とのつながりは、今後の財産になると思います。引き続き麻布学園PTAをよろしく願います。

3月21日の終業式で、PTA委員募集のチラシやPTA会報誌を配布します。PTA活動の概要や様子をまとめておりますので、是非、ご参考にさせていただき、2026年度のPTA活動に参加いただければと願っております。当たり前が当たり前ではないと思わされる昨今、麻布学園のため、ご子息のため、今後ともご協力をお願い申し上げます。

# PTA本部会計より

2025年度の分科委員会及び学年の会計担当の皆さまにおかれましては、PTA会計にご協力いただき、誠にありがとうございました。

麻布学園PTAは、各委員会及び学年にそれぞれ会計担当の方を置き、それらの数字を取り纏めて全体の資金管理や決算、次年度予算の策定を行う役割としてPTA会計を置く体系となっています。

会計なんて、なんだか難しくて大変そう・・・と思われるかも知れませんが、そんなことはありません。PTA会計に関しては、優秀な先輩方がしっかりとしたフォーマットと引継ぎ資料を残して下さっていますし、二人体制、且つ前年度のPTA会計が監事となってフォローをするので、会計の知識がなくても全然大丈夫です。

学園のPTA活動全体をお金の流れから見るというユニークな楽しみ(?)があり、また実は中3と高1の時にしかなれないという期間限定な希少なポジション(?)でもあります。

2026年度中3、高1になられる父母の皆さまの立候補をお待ちします！



## 分科委員会

### 総務委員会（PTA総会およびPTA全般の活動支援）

2025年度PTAの皆様、一年間お疲れ様でした。総務委員会の仕事は、4月保護者会の後の第1回全体委員会、5月開催予定のPTA総会（書面開催）まで続いていきます。来年度のPTAの活動に円滑につなげていけるよう、皆様のご協力をお願いいたします。

今年度はPTAとしてのモバイルWi-Fiの導入や、PTA全体委員会（Zoom開催）の録画データの活用など少しずつではありますが、利便性を高めつつ誰かの負担にならないような取り組みを進めることが出来ました。これも皆様のご協力あってのことだと、大変感謝しております。ありがとうございました。

### 新聞委員会（年3回発行の「麻布PTA」の編集）

保護者の方から「PTA新聞が自宅に届かない」という声もあり、先日のファミリーコンサートでは講堂前でバックナンバーの販売を行いました。受付時間の来場者は多くありませんでしたが、ご子息の写真が掲載されている保護者の方が嬉しそうに何部も購入される姿も見られ、新聞委員会にとってもやりがいを感じる瞬間となりました。

現在、先週の卒業式の様子や、中学生から高校生まで多方面で活躍する生徒への取材を掲載したPTA新聞第3号も完成に近づいています。4面の紙面には取まりきらないほど内容が充実しており、QRコードから別ページもご覧いただける形になっています。

新聞は4月の始業式に配布予定です。ぜひ手に取ってご覧ください。

この1年間、学校の想いや生徒・先生方の活躍を間近で見つめ、それを保護者の皆さまへお届けできたことは、新聞委員会にとって大変貴重な経験でした。委員一同、心より感謝申し上げます。

## 分科委員会

### 会報委員会 (年度末発行のPTA会報誌の編集)

麻布学園PTA会報第53号は3月4日に無事に納品されました。卒業生や新入生、在校生、先生方、取材にご協力いただいた方々、その他関係者への配布手配も完了(一部は配布済み)し、3月7日のPTA全体委員会にて、校長先生にお渡ししました。例年通り、4月4日のホームカミングデーで、バックナンバーを含め販売も行う予定です。

各方面の多くの方々のご協力により無事完成させることができ、皆様方に心より感謝申し上げます。



### PTA活動推進委員会 (学園サイト内PTAページ管理運営、次期会長候補の選考)

PTA活動推進委員会は、基本的に、各方面からの掲載依頼を受け取り、ご依頼の内容につきまして、先生方のご連携を頂きながら、学園ホームページへの掲載を行っています。

このPTA通信は今年度2025年6月から今号まで通算6号、PTA通信ご担当の委員さんが地道におとりまとめくださって、PTA活動推進委員会への掲載依頼を毎号丁寧に行ってくださっています。

PTAからの各種お知らせを、ご在学の生徒さんや保護者のみなさま及びご関係の方々・地域のみなさまをはじめとして、OBの方々を含むさまざまな方々に、学園の現在がリアルタイムに近いかたちで伝わるよう、年間を通した着実な積み重ねを行ってまいりました。

また、来春からの麻布学園PTA委員会のご案内につきまして、さきだって2月公開のPTA活動報告のホームページに加えて、チラシの配布・ポスター掲示の準備を進めております。ぜひご覧ください。

## 分科委員会

### 行事委員会 （文化活動の企画・運営）

行事委員会は、麻の葉講演会、ファミリーコンサート、リサイクル販売会という3つのイベントを主催するとされています。とはいえ、それぞれのイベントに決まった規模はなく、縁あってその年度に集まった役員の方針にて開催すればよいという麻布らしい自治がPTAにも存在します。

今年度は、4人もの登壇者が来てくださった貴重な講演会、多彩な出演者が散りばめられた熱気あふれるコンサートや、たくさんの寄付品を知恵を絞って売りさばくりサイクル販売会を開催でき、楽しく刺激的で、まるで青春のような日々を過ごしました。

来年度以降の主催者の皆様も、楽しめる範囲でPTA活動をしていただけたらと思います。そして麻布を陰ながら支えるPTAがこれからも続くよう願っております。

最後に、今年度行事委員会のすべての活動に協力してくださった方々、ありがとうございました。



## 編集後記

### 地図のない場所から

2024年4月、入学式で聞いたある学生さんの祝辞がとても印象に残っています。

「大学受験を山登りに例えると、道を整備してくれる学校、登り方を教えてくれる学校、一緒に登頂してくれる学校もある。けれど麻布学園は少し違う。登り方も教えてこないし、そもそも「山に登れ」とも言わない。聞けば教えてくれるけれど、ふもとで釣りを始める生徒もいる。いつ、どう登るかは自由なのだ――。」そんな言葉でした。

そして最後にこう続きます。

「麻布では自分の力で登ります。人生に山はひとつではありません。その先の山には自分で登らなくてはなりません。」

最近、漫画『ジョジョの奇妙な冒険』の作者、荒木飛呂彦さんの本がうちに来て、その帯に驚きました。39年続く長編シリーズで、タイトルや画風も独特な作品ですが、その荒木さんが「ジョジョは王道漫画だという自信を持って描き続けてきました」と書いていたのです。異色と王道は正反対ではないのか、と最初は思いました。

けれど荒木さんの言う王道とは、メジャーな作風やベストセラーのことではありませんでした。読み継がれる作品が生まれ、さらに発展が生まれる道標となる道。今いる場所から先へ進むための道。「自分はどこへ行くのか」を探すための道なのだそうです。

荒木さんは、ヒッチコックの『映画術』やホームズなど、尊敬する先人の仕事を「守り神」として持ち続け、それらを地図のようにして歩んできたと言っています。困難や壁にぶつかっても、その地図があることで「黄金の道」を見失わず進むことができた。そして今度は、自分が地図となる本を残し、これからの創作者が新しい地平を切り拓いてくれたら――そんな思いで本を書かれたそうです。

麻布学園は、もしかすると地図のないワイルドな大自然のような場所かもしれません。六年間その中を歩むうちに、それぞれが自分の地図を描き始めます。自分の色を見つけ、自分の視点から「黄金の道」を見出していく。異色の中にこそ王道が見出される、そんな時間なのだと思います。

高校三年生の手には、すでにそれぞれの地図が握られていることでしょう。その地図が、この先さらに遠くまで続いていくことを願っています。

ご卒業おめでとうございます。